

令和3年9月27日

登録番号 13 — 037

氏名 林 久 善

登録番号 19 — 001

氏名 石井 大輔

大阪市地域公共人材活動報告書

- 1 派遣日時 2021年9月19日（日）10：00～12：00
（第3回次）
- 2 派遣場所 グローバルユース防災サミット ZOOM ミーティング
- 3 参加人員 グローバルユース防災サミット5名/地域公共人材2名 計7名
- 4 活動内容
 - (1) ミーティングのテーマ
第3回「イベントの価値・魅力を言葉にする（＋財源確保・ファンドレイジングのレクチャー）」
 - (2) 進行
 - ア 前回振り返り
 - ・ イベント当日の進行、参加者の確保は目途がついたことが確認できた。
 - ・ 参加者や資金を集めやすくすることについて議論する。
 - ・ イベントを開催することにより、実現したいこと、理想とする社会を考えてもらう。
 - ・ NPOの仕組みや資金について適切に理解を深める。
 - イ 財源確保・ファンドレイジングについてのレクチャー
NPO法人の概要、財源の種類、財源獲得について別添資料を用いてレクチャー
 - ウ レクチャーについて意見交換
人件費といった必要経費の考え方、クラウドファンディング手法の活用、企業等寄付の受け方などについて意見交換した。
 - エ ビジョン「理想とする社会」とは？について意見交換
 - ・ 防災を「bosai」として世界の共通語にする。
 - ・ ユースが主役となって災害に強い未来社会を実現する。
 - ・ 大阪（地元）の防災力を高める。
 - ・ 災害で誰も死なない地域づくり
 - ・ 防災をきっかけに社会とつながり、夢や目標を持つようになってほしい。
 - ・ 2025年万博につなげる、2030年SDGsにつなげる。
 - オ まとめ
イベント実施前の対話のファシリテーションを通じて

- ・ 共通する事項や相違する事項が明らかになった。(多様性の認知につながった。)
- ・ イベントを運営する非営利組織やその財源についてレクチャーすることにより、改めて現状と課題を考えるきっかけとなり、メンバー間で共有できた。
- ・ 各委員のビジョンとミッションを対話することで、イベントへのモチベーションが高まっている。

<所感>

イベント事前の対話のファシリテーションは終了した。メンバー間で対話を深めることにより、主体性や当事者性、チームワークが高まり、当日のイベントを成功に導いてほしい。

また、これまでの防災に関する経験を踏まえて、参考となるアドバイスもできたと考える。

今回の派遣ケースは、大阪市の市活基金の助成事業でもあり、財源と人材派遣の伴走型支援のロールモデルとして捉えられる。

事務局としての役割も生じてきたので、他の事業とタイアップした人材派遣を創出するために、施策・事業を俯瞰的な視点で捉えていくようにしたいので、活動現場の声を大切にしていける所存です。

<所感>

実行委員のメンバーによって、どこまでを社会ととらえるか、グローバルユース防災サミットの活動範囲をどこまでととらえるか、「大阪」「身近な地域」「グローバル」と異なっています。そのまま多様性を原動力にしたほうが良いのか、組織として最低限共通させたほうがいいのか、議論をファシリテート・コーディネートしていきたいと思っています。また、「防災」を「Bosai」というように世界の共有言語にするという考え方は面白いと思います。「津波」が「Tsunami」へ、「改善」が「Kaizen」のように日本語がそのまま共通語になった事例があるので、これらの先行事例を調べることでどのようなビジョンが描けるか、考えるきっかけになると思っています。